

理事長挨拶

新理事長就任のご挨拶

会津漆器協同組合 理事長 小沼一夫 (平成22年6月)

組合員各位

平成22年5月28日開催された会津漆器協同組合総会におきまして新しく理事長に選任されました。始めに、鈴木勝健前理事長におかれましては、約7年間という本当に長きに亘り会津漆器産業の発展及び全国レベルでの伝統的工芸品産業の振興にご尽力されましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いており、新体制となりました会津漆器協同組合に対しては、会津漆器業界の更なる発展に結び付く事業が求められております。そこで新体制では新しく「会津塗見える化プロジェクト」を立ち上げ、新しい切り口から各種事業を有機的に関連付け、会津塗のPRや需要拡大に結び付けることができるよう、組合員の皆様と共に知恵を絞って実行していきたいと考えております。

全ては（意識をして）見てもらうことから始まります。見てもらうことで知ってもらうことができます。知ることによって感情も生まれ、情報と一緒に頭の中に記憶されます。そして興味が湧き理解が深まり、最終的には購入に結び付きます。会津は、年間約350万人の観光客が訪れる全国でも恵まれた環境にあります。

しかしながら、訪れた多くの方々に会津塗の全てを見てもらい、会津塗でおもてなしをしているかという、まだまだそのような状況にはありません。そこで会津漆器協同組合では、各業界に携わる方たちに会津塗を上手に利活用してもらうことで、会津地域の物産飲食産業が発展し、その結果として「会津塗の見える化」につながるような仕掛け作りをしていきたと考えております。

そして「会津塗が見えるまちづくり」が完成すれば、自ずと全国に対する情報発信力も高まり需要の拡大が期待できるようになります。そのためには、スタートとして地域の方々に対して「会津塗の見える化」を進め、会津塗に対する理解を深めていただく必要があります。会津漆器協同組合としても各業界との連携を深め、お互い事業所レベルでの交流が生まれるよう丁寧な事業活動を行ってまいりたいと考えています。

会津漆器協同組合では、会津塗のPR・需要拡大事業以外にも、会津漆器技術後継者の養成事業、後継者の自立支援事業等継続して取り組んでいる重要な事業があります。それら多岐に亘る事業を組合員や関係機関の皆様と十分に意見交換しながら、今考えられる最良の方法で実施していきたくと考えておりますので、今までと同様にご支援ご指導いただきますよう宜しくお願い致します